Ⅰ　庶　務　報　告

（1）　会　員　の　異　動　状　況

	平成２５年２月現在	平成２４年２月現在	増　　減
名　誉　会　員	５３名（含国外１５）	５４名（含国外１５）	－　　１
正　　会　　員	４，５１４名	４，４６４名	＋　５０
外　国　会　員	２５名	２６名	－　　１
賛　助　会　員	２０社	２０社	０
入　　会	正１３７名		
退　　会	正　８７名　（含除名 34 名）　賛助０名		

物　故　会　員（五十音順）-敬称略-

名誉会員　　長田（おさだ）　光博（みつひろ）

正 会 員　　井上（いのうえ）　匡子（きょうこ）、岩崎（いわさき）　賢二（けんじ）、土田（つちだ）　幸英（ゆきひで）、

山口（やまぐち）　　将（まさる）、山田（やまだ）　敏雄（としお）

（以上　６名）

（2）　会　議　に　関　す　る　事　項

１．理　　事　　会

平成２４年度第１回　平成２４年６月２２日（金）

東京ステーションコンファレンス　５Ｆ『５０３－Ｃ』

議　　事　（１）　前回議事録・議事要録確認の件
（２）　第２１回基礎学術集会の件
（３）　第５６回総会・学術集会の件
（４）　第２２回基礎学術集会の件
（５）　平成２４年度各種委員会活動方針並びに予算案の件
（６）　各種委員会報告の件
（７）　一般社団移行に関する件
（８）　会費滞納者除名に関する件
（９）　新入会員・退会会員の件
（１０）　国際美容外科学会の件
（１１）　その他

平成２４年度第２回　平成２４年１０月３日（水）
ホテルリステル猪苗代　３Ｆ『白鷺』

議　　事　（１）　前回議事録・議事要録確認の件
（２）　第２１回基礎学術集会の件
（３）　第５６回総会・学術集会の件
（４）　第２２回基礎学術集会の件
（５）　第５５回総会・学術集会の件
（６）　平成２４年度会計中間報告の件
（７）　各種委員会報告の件
（８）　一般社団移行に関する件
（９）　新入会員・退会会員の件
（１０）　その他

平成２４年度第３回　平成２５年２月８日（金）
東京ステーションコンファレンス　６Ｆ『６０５－Ｂ』

議　　事　（１）　前回議事録・議事要録確認の件
（２）　第２１回基礎学術集会の件
（３）　第５６回総会・学術集会の件
（４）　第２２回基礎学術集会の件
（５）　第５７回総会・学術集会の件
（６）　評議員選挙結果報告の件
（７）　平成 24 年度収支見込決算ならびに平成 25 年度予算大綱の件
（８）　一般社団法人移行の件
（９）　各種契約書の件
（１０）　各種委員会報告の件
（１１）　名誉会員等推戴に関する件
（１２）　会費滞納者除名に関する件
（１３）　新入会員・退会会員の件
（１４）　その他

平成２４年度第４回　平成２５年４月２日（火）
京王プラザホテル　４Ｆ『みずき』

議　　事　（１）　前回議事録・議事要録確認の件
（２）　第５５回総会・学術集会の件
（３）　第５６回総会・学術集会の件
（４）　第５７回総会・学術集会の件
（５）　第５８回総会・学術集会の件
（６）　第２２回基礎学術集会の件
（７）　第２３回基礎学術集会の件
（８）　第２４回基礎学術集会の件
（９）　平成２４年度会計決算報告ならびに平成２５年度予算案の件
（１０）　名誉会員等推戴に関する件
（１１）　各種委員会報告の件
（１２）　日韓形成外科学会の件
（１３）　日中形成外科学会の件
（１４）　会費滞納者除名に関する件
（１５）　新入会員・退会会員の件
（１６）　評議員提出議題の件

（１７）　その他

２．評　議　員　会

平成２４年度定例評議員会　平成２４年４月１０日（火）
ホテルニューオータニ　１Ｆ『芙蓉(西)』

議　　事　（１）　平成２３年度年次報告の件
（２）　平成２３年度収支決算の件
（３）　平成２４年度事業計画の件
（４）　平成２４年度収支予算の件
（５）　専門医生涯教育制度施行細則ならび皮膚腫瘍外科指導専門医細則に関する件
（６）　名誉会員推戴の件
（７）　第５５回　総会・学術集会の件
（８）　第５６回（次期）総会・学術集会の件
（９）　第５７回（次々期）総会・学術集会の件
（１０）　第５８回（次々々期）総会・学術集会会長候補者選出の件
（１１）　第２１回　基礎学術集会の件
（１２）　第２２回（次期）基礎学術集会の件
（１３）　第２３回（次々期）基礎学術集会の件
（１４）　第２４回（次々々期）基礎学術集会会長候補者選出の件
（１５）　一般社団法人移行の件
（１６）　定款変更の件
（１７）　日韓形成外科学会の件
（１８）　日中形成外科学会の件
（１９）　会費滞納者除名の件
（２０）　評議員提出議題の件
（２１）　その他

３．総　　会

平成２４年度通常総会　平成２４年４月１２日（木）
ホテルニューオータニ　１Ｆ　『鶴(西)』

議　　事　（１）　平成２３年度年次報告の件
（２）　平成２３年度収支決算の件
（３）　平成２４年度事業計画の件
（４）　平成２４年度収支予算の件
（５）　専門医生涯教育制度施行細則ならび皮膚腫瘍外科指導専門医細則に関する件
（６）　名誉会員承認の件
（７）　第５５回　総会・学術集会の件
（８）　第５６回（次期）総会・学術集会の件
（９）　第５７回（次々期）総会・学術集会の件
（１０）　第５８回（次々々期）総会・学術集会会長候補者承認の件
（１１）　第２１回　基礎学術集会の件
（１２）　第２２回（次期）基礎学術集会の件
（１３）　第２３回（次々期）基礎学術集会の件
（１４）　第２４回（次々々期）基礎学術集会会長候補者承認の件
（１５）　一般社団法人移行の件
（１６）　定款変更の件

（１７）　日韓形成外科学会の件
（１８）　日中形成外科学会の件
（１９）　会費滞納者除名の件
（２０）　評議員提出議題の件
（２１）　その他

Ⅱ　事　業　報　告

（１）第５５回日本形成外科学会総会・学術集会

会　期：平成２４年４月１１日（水）、１２日（木）、１３日(金)
会　場：ホテルニューオータニ
会　長：内沼　栄樹　北里大学医学部形成外科・美容外科学

下記の日本形成外科学会特別講演、招待講演、教育講演、
ガイドラインシンポジウム、パネルディスカッションが行われた。

【招待講演Ⅰ】 第１日　　４月１１日（水）
司会　長崎大学形成外科　　平野　明喜
『AMERICAN PLASTIC SURGERY: Past, present and future』
Clinical Professor of Surgery Division Plastic Surgery
University Texas Medical Branch
Shriners Burns Hospital-Galveston, Texas, USA　Ted T. Huang

【招待講演Ⅱ】 第２日　　４月１２日（木）
司会　帝京大学形成外科　　平林　慎一
『Mega-Volume Autologous Fat Grafting to the Brest』
Surgery of the Hand and
Plastic Surgery, The Miami Hand Center, USA　Roger K. Khouri

【招聘講演Ⅰ】 第１日　　４月１１日（水）
司会　杏林大学形成外科　　波利井清紀
『「はやぶさ」が挑んだ人類初の往復の宇宙飛行、その７年間の歩み』
宇宙航空研究開発機構　教授　　川口淳一郎

【招聘講演Ⅱ】 第２日　　４月１２日（木）
司会　徳島大学形成外科　　中西　秀樹
『バイオエシックスは何故必要なのか　- Learning from History -』
恵泉女学園大学　学長　　木村　利人

【特別講演Ⅰ】　第１日　　４月１１日（水）
司会　東京女子医科大学形成外科　　野﨑　幹弘
『形成外科の裏街道』
北里大学名誉教授、AAC クリニック銀座名誉院長　　塩谷　信幸

【特別講演Ⅱ】　第３日　４月１３日（金）
司会　埼玉医科大学形成外科　中塚　貴志
『時空を超えたランドスケープの創出』
㈱日建設計設計部門　デザインパートナー　吉野　繁

【教育講演Ⅰ】　第１日　４月１３日（金）
司会　大阪大学形成外科　細川　亙

『形成外科領域の漢方治療』
北里大学東洋医学総合研究所　所長　花輪　壽彦

【教育講演Ⅱ】　第２日　４月１３日（金）
司会　北海道大学形成外科　山本　有平
『後天性顔面変形症（老化顔貌）の治療学をめざして』
クリニック宇津木流　宇津木龍一

【教育講演Ⅲ】　第３日　４月１３日（金）
司会　国立成育医療研究センター形成外科　金子　剛
『社会保険診療報酬支払基金について』
社会保険診療報酬支払基金　審議役　新木　一弘

司会　せきぐちクリニック　関口　順輔
東京慈恵会医科大学形成外科　内田　満
『本年度の診療報酬改正について　①総論、処置、検査』
千葉県こども病院形成外科　宇田川晃一
『本年度の診療報酬改正について　②手術』
東邦大学形成外科　大西　清

【シンポジウム１】　第１日　４月１１日（水）
『Learning from History「顔面フィラー注入療法の問題点と将来」』
司会　日本医科大学形成外科　百束　比古
Ｓ１－１　コラーゲン、ヒアルロン酸、ハイドロキシアパタイトなどを用いた治療
神田美容外科形成外科医院　征矢野進一
Ｓ１－２　ヒアルロン酸注入による顔面の volumetric restoration
神戸大学形成外科　一瀬　晃洋
Ｓ１－３　注入療法の合併症と今後
クリニック市ヶ谷　倉片　優
Ｓ１－４　顔面フィラー注入のガイドライン作成に向けて
―美容外科後遺症外来からの提言―
日本医科大学形成外科　小野　真平
Ｓ１－５　顔面注入材料の問題点と安全性
総合東京病院形成外科　保阪　善昭

【シンポジウム２】　第１日　４月１１日（水）
『Learning from History「乳房再建
―どこまで再建の質を高めることができたのか―」』
司会　蘇春堂形成外科　野平久仁彦

Ｓ２－１　インプラントによる乳房再建　―長期経過から学ぶ―
蘇春堂形成外科　　野平久仁彦
Ｓ２－２　わたしの歩んできた乳房再建　―拡大広背筋皮弁―
国際医療福祉三田大学病院形成外科　　酒井　成身
Ｓ２－３　腹壁の血管解剖を知り腹部皮弁の血行の理解を深める
―柔軟で豊満な乳房再建を目指して―
埼玉医科大学総合医療センター形成外科・美容外科　　三鍋　俊春
Ｓ２－４　遊離腹直筋皮弁による乳房再建手術
愛知医科大学形成外科　　梅本　泰孝
Ｓ２－５　Free MS2 TRAM flap による乳房再建
市立四日市病院形成外科　　武石　明精
Ｓ２－６　DIEP flap を用いた乳房再建における整容性追求の課題
癌研有明病院形成外科　　矢島　和宜

【シンポジウム３】　第２日　４月１２日（木）
『Learning from History「脂肪移植の up to date」』
司会　順天堂大学形成外科　　水野　博司
Ｓ３－１　脂肪組織の細胞動態と脂肪組織を基盤とした生体恒常性／
病態解析モデル：より良い脂肪移植のために
佐賀大学臨床病態病理学　　戸田　修二
Ｓ３－２　脂肪移植における幹細胞の役割と展望
東京大学形成外科　　吉村浩太郎
Ｓ３－３　脂肪注入による豊胸術に関する検討
城本クリニック新宿院　　酒井　直彦
Ｓ３－４　乳房への脂肪注入の問題点
日本医科大学形成外科　　小川　　令

【シンポジウム４】　第２日　４月１２日（木）
『Learning from History「口蓋裂児はどこまで正常児に近づけるか」』
司会　京都大学形成外科　　鈴木　茂彦
Ｓ４－１　Pushback 法における口蓋裂術後の言語成績と評価の検討
京都大学形成外科　　河合　勝也
Ｓ４－２　口蓋裂児はどこまで正常児に近づけるか　―術式の変遷―
昭和大学形成外科　　土佐　泰祥
Ｓ４－３　北里大学における初回口蓋形成術の歴史的変遷
―正常な顎発育への挑戦―
北里大学形成外科・美容外科　　池本　繁弘
Ｓ４－４　静岡県こども病院の口蓋裂治療の変遷と現在の治療手順、
および長期成績などについて
静岡県立こども病院形成外科　　朴　　修三
Ｓ４－５　東北大学形成外科における口蓋裂に対する挑戦
東北大学唇顎口蓋裂センター形成外科　　今井　啓道

【シンポジウム５】　第３日　４月１３日（金）
『Learning from History「形成・美容皮膚科における
レーザー・光治療の up to date」』
司会　東海大学形成外科　　宮坂　宗男

Ｓ５－１　形成外科のおけるレーザー機器開発の歴史と今後の課題と将来
札幌スキンケアクリニック　松本　敏明
Ｓ５－２　色素性疾患のレーザー治療 30 年の進歩
葛西形成外科　葛西健一郎
Ｓ５－３　Learning from History：レーザー治療、過去から未来へ
湘南鎌倉病院形成外科・美容外科　山下　理絵
Ｓ５－４　ニキビ、瘢痕に対するレーザー・光治療と今後の展望
東京女子医科大学形成外科　河野　太郎
Ｓ５－５　レーザー治療の歴史的変遷と将来（血管腫・血管奇形を中心に）
大城クリニック　大城　貴史

【ガイドラインシンポジウムⅠ】　第１日　４月１１日（水）
司会　信州大学形成外科　松尾　清
『眼瞼下垂症』
愛知医科大学眼科　幸島　究
福岡歯科大学形成外科　萩家　康弘
広島大学形成外科　宮本　純平
帝京大学形成外科　権太　浩一
松波総合病院形成外科　北澤　健
クリニック宇津木流　宇津木龍一
横浜市立大学形成外科　廣冨　浩一
信州大学形成外科　伴　緑也
松山市民病院形成外科　手塚　敬

【ガイドラインシンポジウムⅡ】　第１日　４月１１日（水）
司会　慶應義塾大学形成外科　貴志　和生
大城クリニック　大城　貴史
『扁平母斑』
大城クリニック　大城　貴史
神戸市立医療センター中央市民病院形成外科　間藤　尚美
岐阜県立多治見病院形成外科　風戸　孝夫
香川大学医学部形成外科・美容外科　宗内　巌

【ガイドラインシンポジウムⅢ】　第２日　４月１２日（木）
司会　札幌医科大学形成外科　四ツ柳高敏
獨協医科大学形成外科　朝戸　裕貴
『耳介先天異常』
札幌医科大学形成外科　齋藤　有
弘前大学形成外科　横井　克憲
昭和大学形成外科　吉本　信也
愛知医科大学形成外科　竹市　夢二
厚生会城北病院形成外科　野瀬　謙介

【ガイドラインシンポジウムⅣ】　第３日　４月１２日（木）
司会　東京女子医科大学形成外科　菊池　雄二
長野県立こども病院形成外科　野口　昌彦

『漏斗胸』

藤田保健衛生大学形成外科　井上　義一
慶應義塾大学形成外科　永竿　智久
長野県立こども病院形成外科　野口　昌彦
東北大学形成外科　高地　崇
千葉県こども病院形成外科　蔵持　大介
横浜市立大学形成外科　山本　康
群馬県立小児医療センター形成外科　浜島　昭人
市立砺波総合病院形成外科　上野　輝夫

【ガイドラインシンポジウムＶ】　第３日　４月１３日（金）

司会　杏林大学形成外科　多久嶋亮彦

『顔面神経麻痺』

東京歯科大学市川総合病院形成外科　田中　一郎
東邦大学医学部大森病院形成外科　林　明照
大阪大学形成外科　松田　健
久留米大学形成外科　山内　俊彦
順天堂大学形成外科　林　礼人
獨協医科大学形成外科　鈴木　康俊
福島県立医科大学形成外科　望月　靖史
杏林大学形成外科　栗田　昌和

【会長特別企画ミニレクチャー】　第２日　４月１２日（木）

『美容外科を志す若き形成外科医のために：
私は形成外科の経験をどのように美容医療に役立ててきたか』

司会　北里大学形成外科・美容外科　武田　啓
北里大学形成外科・美容外科　島倉　康人

ML-1　顔面解剖とフィラー
自由が丘クリニック　理事長　古山　登隆
ML-2　美容外科術後障害の修正手術
聖路加国際病院形成外科　大竹　尚之
ML-3　先天異常と美容外科（特に唇裂鼻と隆鼻術・整鼻術）
自由が丘クリニック　中北　信昭
ML-4　形成外科・美容外科診療における精神医学的かかわりについて
メディカルプラスクリニック／松倉クリニック　林　明照
ML-5　眼瞼手術を行うには何が必要か
北里大学北里研究所病院形成外科　佐藤　英明

【WG 女性支援発足記念(women surgeons working group)】

第１日　４月１１日（水）

『Twilight Champagne for women surgeons』

司会　湘南鎌倉総合病院形成外科・美容外科　山下　理絵

TCWS-1　ゲスト講演：聡明な女医たちへ
桐島　洋子
TCWS-1　ミニレクチャー：疲れ顔解消：当直明けにハイライトマジック
杉本理恵子

（２）第２１回日本形成外科学会基礎学術集会

会　期：平成２４年１０月４日（木）、５日（金）
会　場：ホテルリステル猪苗代
会　長：上田　和毅　福島県立医科大学形成外科学講座

下記の特別講演、シンポジウム、パネルディスカッション、特別セッション、ガイドラインシンポジウムが行われた。

【教育講演１】　第１日　１０月４日（木）
司会　長崎大学形成外科　平野　明喜
『コンピュータで探る顔の秘密』
日本顔学会前会長、東京大学名誉教授　原島　博

【教育講演２】　第１日　１０月４日（木）
司会　東京大学形成外科　光嶋　勲
『形成外科分野発展への芸術論の臨床応用・耳介再建の立場から』
永田小耳症形成外科クリニック　永田　悟

【教育講演３】　第２日　１０月５日（金）
司会　大阪大学形成外科　細川　亙
『臨床医学に必要な統計学の基礎知識』
山口大学保健学系学域生体情報検査学　市原　清志

【教育講演４】　第２日　１０月５日（金）
司会　徳島大学形成外科　中西　秀樹
『超音波計測融合血流シミュレーションシステムの開発』
東北大学流体科学研究所　早瀬　敏幸

【シンポジウム１】　第１日　１０月４日（木）
『Wound closure の基礎的検討』
司会　京都大学形成外科　鈴木　茂彦
慶應義塾大学形成外科　貴志　和生

Ｓ１－１　基礎的検討から見た、「創傷被覆材に求められている機能とその定量評価」
東京医科大学形成外科　松村　一

Ｓ１－２　創傷治癒過程における単球・マクロファージ系細胞の重要性
杏林大学形成外科　菅　浩隆

Ｓ１－３　好中球エラスターゼ活性と皮膚創傷治癒・瘢痕形成外科との関連
慶應義塾大学形成外科　岡部　圭介

Ｓ１－４　皮膚灌流圧は、何を反映しているのか？
血圧と SPP、SRPP の関係について
佐賀大学形成外科　澤井貴和子

Ｓ１－５　閉鎖療法の新しい適応　―縫合創の治癒促進効果について―
防衛医科大学校形成外科　山本　直人

Ｓ１－６　術後創を創傷被覆材などでの保定することの力学的意義
～有限要素法によるシミュレーションから～
日本医科大学千葉北総病院形成外科　秋元　正宇

【シンポジウム２】　第１日　１０月４日（木）
『“まなざし”の科学』

司会　東京医科大学形成外科　渡辺　克益
福岡大学形成外科　大慈弥裕之

Ｓ２－１　まなざしの神経生理学
信州大学形成再建外科　松尾　清

Ｓ２－２　瞼裂を中心とした眼瞼の形態学的検討
慶應義塾大学形成外科　清水　雄介

Ｓ２－３　眼瞼下垂症とドライアイ
京都大学形成外科　幸島　究

Ｓ２－４　自然なまなざしを獲得するための眼瞼・眼窩の再建
福島県立医科大学形成外科　梶川　明義

Ｓ２－５　「目力」のある眼とは何か　～眼瞼下垂症手術と目力～
福岡大学形成外科　高木　誠司

Ｓ２－６　眼瞼挙筋の筋生理学的動態の解析が下垂矯正術式選択に与える洞察
帝京大学形成・口腔顎顔面外科　権太　浩一

【シンポジウム３】　第２日　１０月５日（金）
『Long march　～組織再生迅速化の試み～』

司会　新潟大学形成外科　柴田　実
岡山大学形成外科　木股　敬裕

Ｓ３－１　移植筋体遠位側神経の縫合による逆行性再支配の実験的検証
―新規の経路を介した神経再支配迅速化の試み―
杏林大学形成外科　栗田　昌和

Ｓ３－２　顔面神経麻痺のネットワーク型再建：表情筋を迅速に神経再支配させる
北海道大学形成外科　古川　洋志

Ｓ３－３　ヒト脂肪組織由来間葉系幹細胞による神経内細胞治療法の開発
―標的組織の早期神経再支配を目指して―
大阪大学形成外科　冨田　興一

Ｓ３－４　脊髄損傷の治療法の開発
田附興風会医学研究所　鈴木　義久

Ｓ３－５　組織再生迅速化に向けた全身性酸素化療法の有用性
東京大学形成外科・美容外科　加藤晴之輔

【シンポジウム４】　第２日　１０月５日（金）
『実験手技研究』

司会　日本医科大学形成外科　百束　比古
北里大学形成外科・美容外科　内沼　栄樹

Ｓ４－１　ラットにおける微小血管造影法
国立がん研究センター中央病院形成外科　宮本　慎平

Ｓ４－２　研究に役立つ手技としての有限要素法
ニュートンワークス株式会社 CAE 総合開発センター　太田　裕久

Ｓ４－３　ラット顔面神経再生研究における手技と工夫
東京女子医科大学八千代医療センター形成外科、先端生命医科学研究所　松峯　元

Ｓ４－４　いかをいかにいかすか　～squid axon research in vivo～
東京大学形成外科・美容外科　成島　三長

Ｓ４－５　再生軸索をどのように評価するか
～様々な神経染色法の経験を中心に～
順天堂大学形成外科　　林　　礼人

【パネルディスカッション】　第１日　　１０月４日（木）
『神経再建用語を考える』
司会　北海道大学形成外科　　山本　有平

神戸大学形成外科　　橋川　和信
順天堂大学形成外科　　林　　礼人
北海道大学形成外科　　古川　洋志
大阪大学形成外科　　松田　　健
東京警察病院形成外科　　渡辺　勝頼

第２日　　１０月５日（金）
『専門医認定審査の現状と問題点　―受験生に向けて』
専門医認定委員会委員長　　中塚　貴志

【ガイドラインシンポジウム１】　第１日　　１０月４日（木）
『臀部外陰部の再建』
司会　埼玉医科大学総合医療センター形成外科　　三鍋　俊春
日本大学歯学部口腔外科　　米原　啓之
Ⅰ．膣・外陰欠損
久留米大学形成外科・顎顔面外科　　右田　　尚
大牟田市立病院形成外科　　春日　　麗
岡山大学形成外科　　難波祐三郎
日本大学歯学部口腔外科　　米原　啓之
横浜みなと赤十字病院形成外科　　伊藤　　理
Ⅱ．殿部・会陰部の皮膚欠損
東京女子医科大学八千代医療センター形成外科　　竹内　正樹
埼玉医科大学総合医療センター形成外科　　塩川　一郎
埼玉医科大学総合医療センター形成外科　　山川　知巳

【ガイドラインシンポジウム２】　第２日　　１０月５日（金）
『体表先天異常部門「眼瞼」』
司会　　東邦大学形成外科　　大西　　清
日本医科大学武蔵小杉病院形成外科　　村上　正洋

大阪赤十字病院形成外科　　内藤　　浩
近畿大学形成外科　　朝村　真一
東邦大学医療センター大森病院形成外科　　岡田　恵美
市立函館病院形成外科　　南本　俊之
慶友形成外科クリニック　　蘇　　雅宏
大阪中央病院形成外科　　原元　　潮

彦根市立病院形成外科　　伊藤　文人
秋田赤十字病院形成外科　　飯田　直成
深谷赤十字病院形成外科　　金沢雄一郎

（３）日本形成外科学会誌を編集・発行した。

第３２巻２号	平成２４年　２月	７０頁	４，５１０部
第３２巻３号	平成２４年　３月	７０頁	４，４７０部
第３２巻４号	平成２４年　４月	７２頁	４，５２０部
第３２巻５号	平成２４年　５月	６９頁	４，５５０部
第３２巻６号	平成２４年　６月	８６頁	４，５２０部
第３２巻７号	平成２４年　７月	９２頁	４，５６０部
第３２巻８号	平成２４年　８月	９４頁	４，５６０部
第３２巻９号	平成２４年　９月	８４頁	４，５６０部
第３２巻１０号	平成２４年１０月	７６頁	４，５７０部
第３２巻１１号	平成２４年１１月	８４頁	４，５５０部
第３２巻１２号	平成２４年１２月	８４頁	４，５５０部
第３３巻１号	平成２５年　１月	７５頁	４，５３０部

（４）Journal of Plastic Surgery and Hand Surgery を発行した。

第４６巻１号	平成２４年　３月	５８頁	２，１００部
第４６巻２号	平成２４年　５月	７８頁	２，１００部
第４６巻３,４合併号	平成２４年１０月	１５８頁	２，１００部
第４６巻５号	平成２４年１０月	７８頁	２，１００部
第４６巻６号	平成２４年１２月	７５頁	２，１００部

（５）春季学術講習会及び秋季学術講習会を下記のとおり開催した。

１．春季学術講習会

日　　時：平成２４年４月１０日（火）午後１２時３０分 ～午後４時４５分
会　　場：ホテルニューオータニ　１Ｆ『鶴(西)』
　題目および講師
テーマ１：美容医療・眼瞼
　１）美容外科の歴史とフェイスリスト-Gillies 前と後-
　　クリニカ市ヶ谷　　大森喜太郎
　２）眼瞼：開閉の仕組みと手術に必要な局所解剖
　　信州大学形成外科　　杠　　俊介
　３）体幹の美容外科　　神戸大学美容医科学（寄附講座）　　杉本　　庸
　４）レーザー治療の歴史と基礎
　　東京女子医科大学形成外科　　河野　太郎
テーマ２：医療安全
　５）医療安全と倫理：患者の安全と尊厳を守るために
　　北里大学医学部附属医学教育研究開発センター
　　医学原論研究部門　　齋藤有紀子

２．秋季学術講習会

日　　時：平成２４年１０月３日（水）午後１３時００分 ～ 午後５時１５分

会　　場：ホテルリステル猪苗代　ウィングタワー『天鏡』

題目および講師

テーマ１：形成外科の基本

１）先天異常概論：疾患分類、血管腫分類、試験に出る症候群

筑波大学形成外科　　関堂　　充

２）皮弁概論：局所皮弁のデザインと移植法（付 写真の取り方）

東京医科歯科大学形成外科　　岡崎　　睦

３）再生医療概論：ガイドライン、幹細胞

近畿大学形成外科　　磯貝　典孝

４）科学論文の基本：基本構成（目的・方法・結果・考察）、統計、査読評価

慶應義塾大学形成外科　　永竿　智久

テーマ２：医療安全

５）医療安全対策を機能させるために

－事故事例から学んだヒューマンファクターズの重要性－

福島県立医科大学附属病院医療安全管理部　　橋本　重厚

（６）日本形成外科学会専門医の審査を専門医認定委員会において行った。

平成２４年度専門医合格者氏名（受付順敬称略）

津下　　到	香西　達一	石井　暢明	梅澤　裕己	香山　武蔵
大瀧小百合	三宅　伸完	杉浦　謙介	山田　哲郎	宮下　教子
松下　浩和	内山　佑美	谷口　真貴	和田　充弘	遠野　久幸
葛西　嘉亮	安居　　剛	菅谷　文人	廣川　詠子	今村三希子
齋藤　利香	吾妻　隆久	藤原　英紀	矢吹雄一郎	柴　　將人
福澤見菜子	仲野　雅之	今川千絵子	渡邊　義輝	石原　康裕
樫山　和也	猪股　直美	田中　宏典	中山　玲玲	八杉　　悠
中川由美子	新井麻衣子	野崎　　愛	吉積　佳世	前田　拓摩
遠山　哲彦	水上　高秀	小原　直樹	佐々木真喜子	山本　　改
片山　泰博	小野寺剛慧	藤田　和敏	時吉　貴宏	上村　百合
徳中　亮平	山下雄太郎	藤木　政英	笹尾　卓史	外崎　登一
呂　　秀彦	木下佳保里	石田　泰久	小池　智之	坂本　忠秀
植村　享裕	保坂　宗孝	真名子英理	佐藤　精一	新井　雪彦
長尾　佳子	大澤沙由理	石垣　達也	岩山　隆憲	石川　昌一
新田　匡章	東野　哲志	朴　　寿恵	妹尾　貴矢	内田光智子
中山　真紀	山中　浩気	岸　　慶太	安積　昌吾	荻野　和仁
野中　大樹	槇野　祥生	脇村　祐輝	山岡　尚世	神田　則和
徳元　秀樹	本間　幸恵	佐竹　義泰	山内　大輔	佐々木正浩
前田　　拓	有村　和子	畑野　麻子	成島　三長	佐藤　雅秀
髙橋紀久子	永井　史緒	三枝　紀子	長谷川祐基	徳井　　琢
髙田　　聡	西尾　優志	長谷川晶子	友枝　裕人	堀部　彰子
薄葉　千絵	亀井　　航	櫻井　　泉	宮本　英治	吉竹　俊裕
冨田　祥一	當内　竜馬	平出さおり	鈴木　沙知	
大槻　祐喜	加藤　秀輝	神田　憲吾	髙須　啓之	
五影　志津	江浦　重義	有川　真生	黒柳　美里	合計１２６名
葉山佐和子	ﾄﾞ･ｹﾙｺﾌ麻衣子	西村　礼司	木村眞之介	（応募者１５９名）

（７）日本形成外科学会認定施設の審査を認定施設認定委員会において行った。

平成２５年度新認定施設名

【地　区】	【施　設　名】	【登録番号】
北　海　道	苫小牧日翔病院形成外科	13-1029-000
	市立函館病院形成外科	13-1030-000
東　　北	東北公済病院形成外科	13-2032-000
関　　東	昭和大学横浜市北部病院形成外科	13-3139-000
	東京西徳洲会病院形成外科	13-3140-000
中　　部	富士市立中央病院形成外科	13-3141-000
	飯田市立病院形成外科	13-5085-000
	愛知県がんセンター中央病院形成外科	13-5086-000
関　　西	市立堺病院形成外科	13-6092-000
	京都桂病院形成外科	13-6093-000
	兵庫県立尼崎病院形成外科	13-6094-000
	医療法人明和病院形成外科	13-6095-000
	大阪府済生会野江病院形成外科	13-6096-000

（８）日本形成外科学会専門医更新を専門医生涯教育委員会において行った。

Ａ）平成２４年度専門医更新者氏名（順不同敬称略）

池田　和隆	皐月　玲子	蔵持　大介	安田　聖人	原岡　剛一
高原　　寛	三木　綾子	今泉　　督	森久陽一郎	香川　広司
高田　　徹	深谷　佳孝	台蔵　晴久	阿川かおり	大山　知樹
河合建一郎	柿崎　　桜	戸澤　麻美	藤田　幸代	森　　弘樹
古川　雅祥	瀬田　浩之	藤村　　淳	北澤　義彦	吉田　周平
吉種　克之	大河内裕美	井上　義一	池田佳奈枝	栗田　智之
堀　圭二朗	風間健太郎	塚本　金作	廣冨　浩一	知久　明義
奥村　慶之	三河内　明	青木　恵美	石曽根亜希	伊藤　史子
瀧川　恵美	浅井　笑子	柳林　　聡	大橋菜都子	奥山　典秀
氷見　祐二	宮本　慎平	姫田　十二	松下　祥子	鈴木　裕一
小川　　令	山本　　崇	宮田　明人	片山　公介	佐々木英悟
網倉　良安	小池　幸子	石崎　力久	小幡　有史	森岡　大地
草野　太郎	山内　　誠	橋爪克光知	上田　拓文	宗内　　巌
加藤　摩衣	西田　美穂	大山　聡美	安倍　吉郎	荒田　　順
上田　晃子	矢沢　真子	小熊　　孝	石井　啓子	城田陽一朗
草野　貴子	吉田　　聖	鈴木　文恵	大西早百合	新名　法子
野々村秀明	高橋　義雄	北村　理子	植村　法子	木下　直志
冨田　興一	松峯　　元	貴島　顕二	山中　清孝	山田　雅道
井上　唯史	三枡　律子	陳　　貴史	杉山　成史	伊吾田慎一
矢沢　慶史	山﨑　和紀	青木　　繁	徳山英二郎	池本　繁弘
杉本　孝之	髙田　亜希	北村　珠希	鈴木　真澄	町野　千秋
濵本　有祐	庄野　文恵	白川真紀子	安藤　太一	松本　佳隆
茅野　修史	木下　幹雄	服部　　亮	横川　秀樹	長田　佳郎
松岡　保子	宮村　　卓	山川　知巳	横山　才也	森　　秀樹

吉田　哲也	高橋　嗣明	薗　　雅宏	赤田　美和	上野　輝夫
南本　俊之	梁　　淑姫	内藤　　浩	八巻　　隆	平敷　貴也
飛澤　泰友	佐々木恵一	近藤　昭二	倉片　　優	谷口和佳枝
田邉　裕美	上村　哲司	亀渕　克彦	市岡　　滋	島津　保生
心石　隆史	矢部　哲司	後藤　孝浩	四ツ柳高敏	利根川　均
田嶋　敏彦	渡部　隆博	鴫原　　康	村井　繁廣	権太　浩一
伊東　邦久	右田　博文	桑原　広昌	徳重　広幸	杉本　　一
山田　　大	淺田　裕司	村石世志野	箱崎　美香	澤泉　雅之
石河　利広	木村　直弘	橋本　一郎	西山　智広	中川　宏治
吉岡　直人	柴田　裕達	木下　賀雄	新井　眞樹	平　　広之
小原　宏之	河合　勝也	奥本　隆行	渡邊　彰二	張　　学
岩本　　拓	清澤　智晴	松本　和也	辻野　一郎	西関　　修
畷　　宗久	内田　　玲	原田　浩史	副島　一孝	吉田　　純
森島　容子	茂原　　健	白石　直人	柏　　英雄	児島　忠雄
高柳　健二	青木　　律	佐々木奈穂	岩田　徹也	常多　勝己
河野　太郎	三橋　　清	岡本　泰岳	山崎民千明	
山王　俊明	関堂　　充	李　　節	松浦　英一	

以上２０３名（対象者２５０名）

B）日本形成外科学会専門医生涯教育制度細則第１１条並びに専門医制度細則第２９条第４項により専門医資格を取り消される者

二木　　裕	植木　　徹	平山　信夫	森岡　芳子	井口憲一郎
松浦　葉子	山田　浩人	吉田　芳信	難波　雄哉	一色　信彦
上野　冬生	大原　義雄	安部　正之	薄　　丈夫	堀内　英俊

（９）日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医の審査を皮膚腫瘍外科指導専門医認定委員会において行った。

平成２４年度皮膚腫瘍外科指導専門医合格者氏名（受付順敬称略）

福田　　智	小川　　令	戎谷　昭吾	佐藤　　英	飛澤　泰友
秋本　峰克	三木　綾子	松峯　　元	横山　明子	柴田　知義
安倍　吉郎	加藤　愛子			

以上　１２名

（１０）平成２５年度評議員選挙を行った。

平成２５年度評議員選挙管理委員会

委 員 長：林　　淳也
副委員長：下田　勝巳
委　　員：荒牧　典子　　荻野　晶弘　　尾﨑　　峰　　窪田　吉孝
　　佐藤　伸弘　　名取　悠平　　矢野　智之

予備委員：飯田　拓也　　鴻池奈津子　　土屋　沙緒　　花井　　潮

計５回の委員会を開催し、定款並びに評議員選挙施行細則に基づき選挙を行った。

開票の結果、下記１５０名の新評議員を決定した。

【北海道・東北支部（定数１３名）】

飯田　直成	今井　啓道	上田　和毅	漆舘　聡志	柏　　克彦
木村　　中	小林誠一郎	佐々木　了	館　　正弘	野平久仁彦
福屋　安彦	山本　有平	四ツ柳高敏		

【関　東　支　部（定数６６名）】

相原　正記	赤松　　正	秋月　種高	秋元　正宇	朝戸　裕貴
安藤　和正	井砂　　司	市岡　　滋	伊藤　芳憲	今川孝太郎
岩波　正陽	宇田川晃一	内田　　満	内沼　栄樹	大浦　紀彦
大久保文雄	大城　貴史	大竹　尚之	大西　　清	岡崎　　睦
門松　香一	金子　　剛	菊池　雄二	貴志　和生	清澤　智晴
倉片　　優	黒木　知明	光嶋　　勲	小室　裕造	櫻井　裕之
佐武　利彦	佐藤　兼重	柴田　　実	清水　祐紀	菅原　康志
角谷　徳芳	関堂　　充	多久嶋亮彦	竹内　正樹	武田　　啓
田中　一郎	土佐　泰祥	永竿　智久	仲沢　弘明	中塚　貴志
二ノ宮邦稔	根本　　充	林　　明照	百束　比古	平林　慎一
福本　恵三	本田　隆司	前川　二郎	松浦愼太郎	松村　　一
水野　博司	三川　信之	三鍋　俊春	宮坂　宗男	宮脇　剛司
村上　正洋	森　　弘樹	山下　理絵	吉村浩太郎	吉本　信也
渡辺　克益				

【中　部　支　部（定数１６名）】

岩澤　幹直	亀井　　譲	川上　重彦	岸邊　美幸	島田　賢一
武石　明精	鳥山　和宏	中川　雅裕	中東　和彦	深水　秀一
松尾　　清	山元　康徳	杠　　俊介	横尾　和久	吉村　陽子
米田　　敬				

【関　西　支　部　（定数２７名）】

朝村　真一	石川　浩三	磯貝　典孝	伊藤　文人	今井　啓介
上田　晃一	岡田　　雅	垣淵　正男	河合　勝也	久徳　茂雄
楠本　健司	桑原　理充	鈴木　健司	鈴木　茂彦	谷口　泰徳
寺師　浩人	土井　秀明	内藤　素子	中井　國博	西本　　聡
野村　　正	橋川　和信	細川　　亙	森本　尚樹	矢野　健二
山脇　吉朗	義本　裕次			

【中国・四国支部（定数１２名）】

青木　久尚	稲川　喜一	木股　敬裕	木村　得尚	毛山　　章
田中　嘉雄	中岡　啓喜	中西　秀樹	難波祐三郎	橋本　一郎
村上　隆一	横田　和典			

【九　州　支　部（定数１６名）】

秋田　定伯	石田　有宏	井上要二郎	上村　哲司	大慈弥裕之
清川　兼輔	小薗喜久夫	高木　誠司	田中　克己	西村　剛三
平野　明喜	迎　　伸彦	森岡　康祐	安田　　浩	矢野　浩規
力丸　英明				

（１１）各種委員会報告

１）財務委員会

委　員　長：鈴木　茂彦
委　　員：川上　重彦、佐藤　兼重、細川　亙、山本　有平
開催年月日：①平成 24 年 10 月 5 日、およびメール委員会
主 な 議 題 ：１．平成 24 年度収支決算
　　２．平成 25 年度予算案
活動の概要：１．平成 24 年度収支決算、平成 25 年度予算案について確認を行った。
　　２．財政運営に関する長期展望を検討した。

２）専門医認定委員会

委　員　長：中塚　貴志
担 当 理 事：内沼　栄樹
委　　員：相原　正記、井砂　司、　今井　啓介、岩澤　幹直、大久保文雄、
　　大西　清、　垣淵　正男、岸邊　美幸、木股　敬裕、木村　中、
　　多久嶋亮彦、田中　克己、松村　一、　三鍋　俊春、宮坂　宗男、
　　宮脇　剛司、四ツ柳高敏
開催年月日：①平成 24 年 4 月 11 日、②平成 24 年 10 月 5 日
　　③平成 24 年 11 月 25,26 日、④平成 25 年 1 月 24,25,26 日
主 な 議 題 ：１．専門医申請者の資格審査
　　２．専門医認定審査
　　３．審査法の検討
　　４．研修手帳の作成
活動の概要：１．平成 24 年度の専門医申請者 159 人に対し、平成 24 年 11 月 25,26 日に都市センターホテルにて提出書類による資格審査を行った。
　　２．今回、資格審査において書類不備の率は去年に比し減少したものの、日付記載ミス、術前後の画像・術後写真の不足などのミスが目立ち、書類再提出依頼は 67 人に及んだ。資格審査で不合格、書類不備がありと判断された申請者からの弁明、書類追加に対してメール委員会を開き審査した。その結果、資格審査による不合格は 4 人となり、155 人が筆記試験の受験資格を得ることとなった。
　　３．資格審査合格者 155 人に対し、平成 25 年 1 月 24,25,26 日にホテルニューオータニにて筆記試験および口頭試問による審査を行った。
　　４．筆記試験問題の一部を問題集から改変し出題した。医療問題は前年同様 1 問出題した。また、記述式問題を 1 問出題し、採点には加えないが、口頭試問の際の参考とした。今回の専門医審査では、口頭試問において、５問中２問は１０症例と直接関連のない一般臨床問題を出題することになり、委員が作成し用意した３１問を各班で順番に使用した。合否基準に関しては、筆記試験と口頭試問の評価方法は従来通りであったが、これに書類審査の減点制を加味した。

５．筆記試験の結果は、最高点 98 点、最低点 50 点、平均 82 点であった。
審査の最終結果は以下のごとくであった。
専門医審査申請者：159 人
資格（書類）審査不合格者：4 人
筆記・口頭試問不合格者：27 人
欠席者：2 人
専門医試験合格者：126 人
合格率：80.3%　（126/157）

６．専門医認定機構の勧告を受け、学会として「研修手帳」を作成することが提案され、理事会から要請されたので、多久嶋委員を委員長として本委員会内に「研修手帳作成部会」を設けて検討した。その結果、研修手帳の素案が作成されたが、症例記録に関しては学会のデータベースを利用することが最も合理的で申請者の負担にならない方法と思われたが、その具体的な運用方法に関しては今後の検討とすることが確認された。以上の結果は、専門医統括会議においても報告され了承された。

３）専門医生涯教育委員会

委　員　長：楠本　健司
委　　員：秋元　正宇、阿部　清秀、飯田　直成、石田　有宏、岡　博昭、
小林　一夫、内藤　素子、中東　和彦、横尾　和久
開催年月日：平成 25 年 2 月 3 日（更新審査委員会）
その他、適宜メール委員会
主 な 議 題 ：１．専門医資格更新審査
２．委員会承認の学術集会・研究会等の更新審査
３．学術集会・研究会等の新規登録申請の審査
４．その他
活動の概要：１．専門医資格更新審査
ⅰ）専門医資格更新審査対象者は 250 名で、更新を承認された者は 203 名（内、書類不備により返却し追加書類などの提出により更新を認めたもの 2 名）、追加書類など提出しても条件を満たさず更新を認めなかったもの 4 名、留保 5 名、更新辞退 2 名、未提出 36 名であった。
ⅱ）上記の内、65 歳以上の方の該当は 10 名で、更新を承認 2 名、未提出 8 名であった。
ⅲ）留保願いは 6 名で、うち 5 名は海外留学、病気療養等のため 1 年の留保が認められた。1 名は留保理由が不充分であるため承認されなかった。
ⅳ）締め切り後の書類提出、参加章を台紙に貼付せず提出、締め切り後に審査料入金など、以上合計 10 名に警告文を送付した。

２．委員会承認の学術集会・研究会等の更新審査
更新対象の関連学会・研究会等 11 件につき、3 年分のプログラムを確認し、更新を承認した。また、関連学会の地方会は 3 年ごとに更新審査を行うが、今後は確認のみとする。

３．学術集会・研究会等の新規登録申請の審査
学術集会、研究会の新規登録申込が「日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会」「日本再生医療学会」「谷根千形成懇話会」「神戸形成外科集談会」「北大形成外科アカデミー」「岡山創傷治癒研究会」「奈良形成外科研究会」と 7 件あり、承認し、点数を付与した。承認された研究会および点数は会告に掲載予定。

４．その他
①生涯教育基準点数における、「支部学術集会(8 点)」と「地方会(6 点)」があり、地域によって開催回数に差があり、不公平感があること、主催者における混乱も生じているため、開催状況を調査した。2013 年度より支部が独立するため、各地区の形成外科学会学術集会ならびに地方会を一律 8 点とし、他の研究会と同様 3 年に 1 度演題数の報告を行うが、10 以下になっても警告のみとし、登録学会からは外さないこととしたい旨、理事会に上申したが、支部学術集会から各地区の形成外科学会学術集会への移行期であることから、次年度に持ち越しとなった。
②診療実績書の提出を義務づけているが、内容が一定でなく個々人に任されている。来年度からサンプル提示をして、より整理した内容で提出してもらえるようにする。

４）専門医試験問題作成委員会

委　員　長：吉本　信也
委　　員：浅井真太郎、岡田　雅、　奥本　隆行、河合　勝也、菊池　雄二、木村　得尚、栗山　元根、黒木　知明、桑原　理充、小薗喜久夫、坂井　靖夫、佐々木　了、島倉　康人、清水　祐紀、武石　明精、土佐　泰祥、内藤　浩、　根本　充、　浜島　昭人、松浦慎太郎、山崎　明久、吉川　厚重、力久　直昭　＊下線は分野責任者
開催年月日：平成 24 年 4 月 12 日、メール委員会 4-5 回
活動の内容：１．昨年に引き続き、図付き問題を各委員２問ずつ作成し、何度か見直しを行った。
２．各委員が、各自の担当範囲の中から２０問を選んで解説や文献を付けた。
３．上記の２０問の中で、疑問のある問題を挙げてもらい、検討した。

５）認定施設認定委員会

委　員　長：佐藤　兼重

委　　員：上田　晃一、上村　哲司、柏　克彦、　菅原　康志、
田中　一郎、橋本　一郎、深水　秀一

開催年月日：①平成 24 年 11 月 4 日 1 回目メール委員会
②平成 24 年 11 月 26 日 2 回目メール委員会
③平成 24 年 12 月 4 日 3 回目メール委員会
④平成 24 年 12 月 21 日 4 回目メール委員会
⑤平成 25 年 1 月 10 日 5 回目メール委員会
⑥平成 25 年 1 月 31 日 6 回目メール委員会
⑦平成 25 年 2 月 16 日：平成 24 年度認定施設認定委員会

主 な 議 題：１．大学などの医育機関病院における認定施設認定では形成外科診療科長の他科との併任ができないことを前提として各認定施設へ通達
２．認定施設および教育関連施設の更新認定と新規認定審査
３．その他

活動の概要：１．平成 24 年の認定施設認定においては、日本専門医制評価・認定機構からの「基本領域診療科において 2 つの基本診療科を研修施設として認定することはできない」という決定事項をもとに皮膚科内形成外科診療班、耳鼻咽喉科内形成外科診療班、口腔外科内形成外科診療班などの施設は認定施設として認定はできないとなった。そのため該当大学病院などの施設について、できる限り多くの情報をもとに検討を行った。

平成 24 年 10 月 25 日に各施設にその変更を通達した。該当する各大学施設は①診療科として独立しているか否か②皮膚科・形成外科または歯科口腔外科・形成外科として形成外科の診療科はあるが科長を他科が併任している施設であるかどうか③皮膚科形成外科診療班または耳鼻咽喉科形成外科診療班などの診療班であるかどうかについて検討した。このうち問題となるのは②の診療科長を他科の科長が併任している施設かどうかの確認が重要課題となった。すなわち形成外科診療科の科長を他科が併任している施設では原則認定の承認はできないが、国立大学などでは科長の変更にも時間がかかるため猶予を設けることで「条件を満たせば承認とするが、1 年の猶予期間中に科長を形成外科専門医に据えかえること」をいくつかの施設にはお願いした。

２．本年度の認定施設・教育関連施設の更新および各新規申請の審査結果は次の通りである。

ｉ）認定施設更新申請は 287 であり、うち 280 が更新認定された。5 施設は教育関連施設への転換となった。2 施設は資格取り下げとなった。

ii）教育関連施設更新申請は 160 施設であり、うち 142 施設が更新認定された。10 施設は認定施設への昇格が承認され、8 施設は資格取り下げとなった。

iii）新規認定施設申請は15施設であり、13施設が認定された。2施設は教育関連施設として更新することとなった。新規教育関連施設申請は29施設であり、うち26施設が認定され、3施設は未承認となった。

３．その他

ｉ）形成外科診療科が診療科として独立を判断する公正な判断について検討を行った。

ホームページなどに病院の診療科が独立して外来・手術など週間スケジュールを有しており、診療科長に形成外科専門医が就任していることは最低条件である。また形成外科単独での財務における診療報酬の算定が行われていること。一施設（皮膚科・形成外科など）における形成外科の症例は他科（皮膚科など）と分離していること。学会発表などにおいても形成外科症例は形成外科症例として形成外科関係の学会での発表または論文業績であること。さらには医育機関では専認構のサイトビジットに積極的に参加することなどが公正な判断基準となるかと考えている。

６）学術委員会

委　員　長：大慈弥裕之

委　　員：秋田　定伯、磯貝　典孝、稲川　喜一、井上要二郎、岡崎　睦、小川　令、　光嶋　勲、　櫻井　裕之、柴田　実、　菅原　康志、関堂　充、　高木　誠司、武田　啓、　館　正弘、　田中　嘉雄、鳥山　和宏、永竿　智久、西本　聡、　橋川　和信、杠　俊介、横田　和典

開催年月日：①平成24年4月12日、②平成24年10月4日、メール委員会随時

主な議題：１．平成２４年度春季学術講習会の件

２．平成２４年度秋季学術講習会の件

３．平成２４年度学術奨励賞

活動の概要：１．平成24年4月10日(火)ホテルニューオータニ東京において平成24年春季学術講習会を「美容医療・眼瞼」、「医療安全」のテーマで開催した。参加申し込み320名であったが、うち欠席6名、早退1名、参加章未着2名、当日聴講申込1名であった。

２．平成24年10月3日(水)ホテルリステル猪苗代にて平成24年秋季学術講習会を「形成外科の基本」、「医療安全」のテーマで開催した。参加申し込み157名、欠席4名、遅刻1名、当日聴講申し込みが1名あった。

３．平成24年度学術奨励賞は、機関誌以外部門からの公募で、計21編(基礎部門10編、臨床部門11編)の応募があった。候補論文4編(基礎部門2編、臨床部門2編)と機関誌編集委員会より選定された機関誌部門候補論文4編（基礎部門2編、臨床部門2編)の合わせて8編を理

事会に上申し、以下の4編が学術奨励賞に決定した。

《学術奨励賞》

【基礎部門】

江藤　ひとみ　氏　杏林大学医学部形成外科

『The fate of adipocytes after nonvascularized fat grafting: evidence of early death and replacement of adipocytes.』

Plast Reconstr Surg. 2012 May;129(5):1081-92

親松　　宏　氏　新潟大学医歯学総合病院形成外科

『Morphological assessment of early axonal regeneration in end-to-side nerve coaptation models.』

JPSHS, 46(5): 299-307, 2012

【臨床部門】

林　　礼人　氏　順天堂大学医学部附属順天堂病院形成外科

『Hemihypoglossal nerve transfer for acute facial paralysis.』

J Neurosurg. 2012 Oct 26. [Epub ahead of print]

佐野　仁美　氏　東京大学大学院医学系研究科外科学専攻形成外科学分野

『Treatment of venous ulcers with bone marrow-impregnated collagen matrix.』

JPSHS, 46(1): 37-44, 2012

６－ｉ）ガイドライン作成部会

合同ガイドライン委員会

部　会　長：清川　兼輔

委　　員：秋田　定伯、大城　貴史、柏　克彦、　菊池　雄二、清澤　智晴、関堂　　充、寺師　浩人、土佐　泰祥、三鍋　俊春、市岡　　滋、木村　　中、楠本　健司、菅又　　章

開催年月日：平成24年4月12日（木）　8時～9時

（第55回日本形成外科学会総会開催時）

主な議題　：ガイドライン作成の進捗状況について報告

メール委員会（頻回）：

１．ガイドライン委員によるCQ案の検討

２．委員への案配信および意見徴収、統括責任者への差し戻しおよび修正依頼

３．ガイドライン案作成の推進

開催年月日：平成24年10月4日（木）　12時10分～9時10分

（第21回日本形成外科学会基礎学術集会）

主な議題　：ガイドライン作成の進捗状況について報告会

メール委員会（頻回）：

１．ガイドライン委員によるCQ案の検討

２．委員への案配信および意見徴収、統括責任者への差し戻しおよび修

正依頼
３．ガイドライン案作成の推進

６－ⅱ）用語部会

部　会　長：柴田　実
委　　員：小川　令、　清澤　智晴、久徳　茂雄、永竿　智久、野瀬　謙介、
力丸　英明
活動の概要：日本医学会用語委員会に日本形成学会用語集ファイルと医学会用語集に統合する事は問題が多すぎるので、日本医学会用語委員会を部会辞書として使用可能にしてもらうことを御願いし、作業が終了致しました。
使い方は keiseigeka 団体資格で log in し､和英辞書から入ると形成外科用語集が使えます。使用体裁に少し改良が必要と思われますが、この入り方で英和・和英の用語検索が可能となっています。近いうちに、会員に連絡の段取りを取りたいと思います。
活 動 方 針：今後は日本医学会の載っていない重要な形成外科用語を選択して医学会辞書に登録してもらうための作業を行う。
★欧文全 7,531 件の結果
◎：英語と日本語が一致――――――――――――――3,060 件
（医学会辞典に日本語が複数ある場合、その１つと一致しているものを含む）
△：英語は一致するが、日本語は一致しない――――709 件
▲：日本語が一致するが、英語は一致しない――――715 件
×：英語、日本語ともに医学会辞典にはない――――3,047 件

７）機関誌編集委員会

委　員　長：上田　和毅
委　　員：秋月　種高、石川　浩三、石田　有宏、市岡　滋、　稲川　喜一、
上村　哲司、梅田　整、　大城　貴史、岡崎　睦、　小川　令、
梶川　明義、柏　克彦、　櫻井　裕之、佐々木　了、菅又　章、
寺師　浩人、中岡　啓喜、永竿　智久、西本　聡、　野平久仁彦、
橋本　裕之、深水　秀一、福屋　安彦、朴　修三、　細川　亙、
本田　隆司、水野　博司、矢野　浩規、杠　俊介、　横尾　和久、
吉岡　伸高、吉村浩太郎、力丸　英明
開催年月日：平成 24 年 4 月 11 日(水)
平成 24 年 10 月 5 日(金)
活動の概要：１．投稿論文進捗状況　＊平成 24 年 3 月 1 日～平成 25 年 2 月 28 日
①投 稿 数 136 編(総説 3、原著 43、症例 90)
②掲載決定　74 編(総説 2、原著 19、症例 53)
③進 行 中　33 編(原著 14、症例 19)
④待 機 中　15 編(原著 3、症例 12)
⑤却　　下　 9 編(総説 1、原著 5、症例 3)

⑥取り下げ　5編(原著2、症例3)
※受付不可　4編(原稿不備4　*上記投稿数には含まず)

２．投稿規定改定
利益相反、ウェブサイト上の資料、原稿の書き方などの変更について、平成24年6月22日の理事会において承認された。

３．統計処理の校閲について
岡田達也先生（福島県立医科大学医学部医学科自然科学講座（数学）教授）が特任編集委員として平成24年10月3日の理事会において承認された。

４．学術奨励賞候補論文推薦論文選出
平成24年度学術奨励賞候補論文として日形会誌（Vol. 32, No.1～12）から2編、JPSHS（Vol. 45, No.6～Vol. 46, No.6）から2編、計4編を学術委員会へ推薦した。

５．Medlineへの掲載申請について
全編に英文アブストラクトが掲載される第33巻第1号から4号分がそろう第33巻第4号の発行後に申請予定である。

８）渉外・広報委員会

委　員　長：朝戸　裕貴
委　　員：赤松　正、　秋元　正宇、今井　啓道、岩平　佳子、小山　明彦、岸邊　美幸、桑原　理充、橋川　和信、元村　尚嗣、森　弘樹、矢野　健二、矢野　浩規
開催年月日：①平成24年4月12日、②平成24年10月4日、他メール委員会4回
主な議題：ビデオライブラリーの内容再評価、HPアクセス解析の検討
活動の概要：１．ビデオライブラリー内容を委員間で分担してチェック
２．学会誌ニュースレター内容の管理、
３．HP内容の転載許可への対応

９）国際委員会

委　員　長：百束　比古
委　　員：小林誠一郎、光嶋　勲、水野　博司、清川　兼輔
開催年月日：①平成24年4月13日、②平成24年10月5日
主な議題：１．国際会議の広報について一会議の選定
２．日本形成外科学会トラベリングフェロー制度の検討　(他学会の状況検討)
３．国際形成外科学会（IPRAS)招致について
４．国際美容外科学会（ISAPS）招致と会長の選考、援助について
５．日韓、日中形成外科学会と本学会との連携について
６．米国形成外科学会とのより深い連携の模索
活動の概要：１．開催案内をする国際学会の提起。

２．Traveling fellpw 制度の具体案の作成と提起。
３．ISAPS の 2016 年誘致と援助の検討。
４．ＩＰＲＡＳの誘致の検討。
５．米国形成外科学会との連携の検討

１０）社会保険委員会

委　員　長：金子　剛
担当理事：内田　満
委　　員：相原　正記、井砂　司、　井上要二郎、宇田川晃一、大久保文雄、大城　貴史、大西　清、　荻野　浩希、小室　裕造、関口　順輔、関堂　充　、館　正弘、　田中　嘉雄、鳥山　和宏、難波祐三郎、二ノ宮邦稔、前川　二郎、村上　正洋、村上　隆一、矢野　健二、吉田　哲憲
開催年月日：①平成 24 年　4 月 13 日(全体)、②平成 24 年　9 月 21 日(在京)
③平成 24 年 12 月 12 日(在京)、その他 適宜 e-mail 委員会
活動の概要：１．平成 26 年度改正要望項目について

外保連が作成する「社会保険診療報酬に関する改正要望書」に収載する技術について、加盟学会にアンケート調査が行われた。日形会からの回答は以下の通り。今後、学会間で調整して医療技術（再）評価提案書を記載する。

①新設要望（8 項目）
乳房再建術（ゲル充填人工乳房によるもの）
乳房皮膚延長術
乳房再建術（遊離皮弁によるもの）
局所陰圧閉鎖処置（単回使用によるもの）
デブリードマン（水圧式ナイフによるもの）
ＩＣＧによる赤外線蛍光リンパ管・リンパ節造影
陰茎再建術（尿道再建を伴うもの）
乳房縮小術（性別適合手術におけるもの）

②改正要望（5 項目）
画像等手術支援加算　2.実物大臓器実体モデルによるもの：増点
画像等手術支援加算　1.ナビゲーションによるもの：対象手術の拡大
組織拡張器による再建手術（一連につき）：一連につきの削除
創外固定加算：対象手術の拡大
乳房再建術：名称変更

③医療材料の新規保険収載の要望（3 項目）
ゲル充填人工乳房
SNaＰ陰圧閉鎖療法システム
乳房専用組織拡張器

２．外科系学会保険委員会連合（外保連）関連
①外保連委員

以下のように委員会に所属して活動を行った。

手術委員会　：関堂　充、二ノ宮邦稔

(手術委員会)コーディングワーキンググループ　：相原　正記

(手術委員会)医療材料・医療機器ワーキンググループ　：前川　二郎、金子　剛

処置委員会　：関口　順輔(委員長)、小室　裕造、荻野　浩希

(処置委員会)輸血ワーキンググループ　：関口　順輔

検査委員会　：二ノ宮邦稔、荻野　浩希

実務委員会　：関堂　充

(実務委員会)要望順位づけ検討ワーキンググループ　：金子　剛

②新規術式の登録

新設要望に沿って新規術式の登録を行った。

３．日本医師会疑義解釈委員会関連

委員長が委員として参加している。本年度より疑義解釈委員会と保険適用検討委員会に分割して開催している。以下について保険適用可との答申を行った。

バーサジェットＳ：平成 24 年 11 月 2 日　皮膚科学会と共同

ナトレル・ブレストインプラント：平成 25 年 2 月 26 日　外科学会、産科婦人科学会と共同

ナトレル・133 ティッシュエキスパンダー：平成 25 年 2 月 26 日　外科学会、産科婦人科学会と共同

４．先進医療・高度医療関連

先進医療専門家会議と高度医療評価会議は、2012 年 10 月に統合され、委員長が技術の審査を実質的に行う先進医療技術評価部会に構成員として参加している。

聖マリアンナ医大形成から先進医療Ｂ（旧高度医療）として申請のあった、「多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍治療」は継続審議中である。

５．DPC 関連

これまで厚労省保険局医療課により、診療報酬改正のある年の前年にのみ開催されていた診断群分類見直し作業班会議は、中医協 DPC 評価分科会の下部組織であるDPC検討WGとして通年活動することとなった。委員長が MDC16 班の班長（形成側）として指名され、井砂委員、秋元正宇先生（社保委員外、日本医大北総医療センター）が班員として参加している。第一回班長会議が平成 24 年 8 月 15 日に開催され、各班より診断群分類の精緻化、副傷病名等のアンケート調査を行った。今後ＭＤＣ班毎にデータを基に検討を行う予定。

また、医療課より横断的検討のための意見が求められたため、以下の様に分担して検討した。

MDC1 神経：担当なし

MDC2 眼：大久保

MDC3 耳鼻科：村上

MDC7 筋骨：二ノ宮
MDC8 皮膚：相原（班員）
MDC9 乳腺：矢野
MDC14 先天異常：宇田川
MDC16 外傷：金子（班長）、井砂（班員）、秋元（班員、社保委員外、日本医大北総医療センター）

６．日本小児期外科系関連学会協議会（JPASS）関連
委員長と鈴木啓之先生（社保委員外、千葉こども病院）の２名が参加している。

７．広報活動
①第５５回日本形成外科学会学術集会において教育講演を行った。
日時：平成 24 年 4 月 13 日（金）13:20 から 15:20
第一部：社会保険診療報酬支払基金について
演者：新木一弘氏　社会保険診療報酬支払基金審議役（前厚労省医政局研究開発課課長）
司会：金子　剛
第二部：本年度の診療報酬改正について
演者：大西　清、宇田川晃一
司会：関口順輔、内田　満担当理事
②第 56 回日本形成外科学会学術集会において教育セミナーを予定している。
日時：平成 25 年 4 月 3 日（水）14：50 から 15：30
テーマ：医療保険制度の改革と形成外科
演者：宇都宮啓氏　厚労省保険局医療課課長
司会：金子　剛

８．その他
①医療ニーズの高い未承認医療機器等の早期導入に関する要望
オメガスキャナー（レーザー計測装置）について、2013 年 2 月の理事会に諮り了承を得た後に、2013 年 2 月 21 日に厚労省医政局経済課医療機器政策室宛に申請を行った。なお導入希望企業はＵ＆Ａ社。
②医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬の要望について
厚労大臣宛のプロプラノロール塩酸塩の早期開発(適応拡大)への要望書について、2013 年 2 月の理事会に諮り了承された。2013 年 2 月末に大臣官房あてに要望を行った。なお導入希望企業はマルホ(株)である。
③審査・査定における問題点について
宇田川部会長を中心に検討し、質問者に回答した。
下咽頭がん手術、再建時の請求
Latham 装置による術前顎誘導を行う場合の、装置本体と装着術の請求
乳房切除時の組織拡張術が査定される件

全層で採取した皮膚を網状分層植皮として使用する場合の請求について
RED 延長器を使用した場合に screw が査定される件について
リンパ浮腫に対する手術の請求について

１１）倫理委員会

委　員　長：内田　満
委　　員：磯貝　典孝、伊藤　芳憲、岩波　正陽、大竹　尚之、楠本　健司、小林誠一郎、吉村　陽子
外部委員：中木　敏夫、松木　邦裕、北河　隆之
開催年月日：①平成 24 年 5 月 8 日（メール委員会）
②平成 24 年 5 月 29 日（メール委員会）
③平成 24 年 8 月 18 日（メール委員会）
④平成 24 年 11 月 10 日（メール委員会）
⑤平成 25 年 1 月 10 日（メール委員会）
主な議題：１．学会員のグル―ポンへの関与、学会事務局への苦情、行政処分を受けた学会員への対応について
２．学術集会におけるヒト幹指針に沿わない演題の取り扱い、およびヒト幹指針を遵守することを促す声明文について
３．学会事務局へのクレーム事例について、また今後の同様事例への対処方法について
活動の概要：１．懲罰規定の内容を再検討した。
２．会員資格停止通知の文面を作成した。
３．ヒト幹指針を遵守していない演題の取り扱いを検討した。
４．ヒト幹指針を遵守することを促す声明文を出すことの是非を検討した。
５．学会事務局へのクレーム事例への対応を検討し、今後の同様事例に対する倫理委員会の開催および具体的な対応方法を検討した。

１１－ｉ）利益相反部会

部　会　長：内田　満
委　　員：磯貝　典孝、鈴木　健司、角谷　徳芳
外部委員：北河　隆之
開催年月日：平成 24 年 5 月 8 日（メール委員会）
主な議題：１．利益相反に関する指針と運用のための細則が承認された経緯について
活動の概要：１．ホームページに掲載する利益相反に関する指針等の内容を確認した。
２．学術集会の演題募集における利益相反の取り扱いを指導した。
３．役員、学会長、各種委員会委員長などへ自己申告書を送付した。

１２）制度検討委員会

委　員　長：仲沢　弘明
委　　員：島田　賢一、本田　隆司、村上　正洋、森岡　康祐、吉村　陽子
開催年月日：第１回メール委員会　平成 24 年 6 月 11 日
主な議題：一般社団法人移行後の各地区形成外科学会会則について(1)
　　現行各支部の会則についての調査
開催年月日：第２回メール委員会　平成 24 年 6 月 11 日
主な議題：一般社団法人移行後の各地区形成外科学会会則について(2)
　　関東、東海支部の会則（案）の作成
開催年月日：第３回メール委員会　平成 24 年 11 月 19 日
主な議題：一般社団法人移行後専門医制度細則の変更について
活動の概要：上記議題につき、検討を行なった。

１３）企画調査委員会

委　員　長：貴志　和生
委　　員：岸邊　美幸、坂井　靖夫、菅原　康志、西野　健一、三川　信之
開催年月日：平成 24 年 4 月 12 日
　　その他、メール委員会を適宜行った。
主 な 議 題：１．平成 24 年度科学研究費の申請状況ならびに採択状況
　　２．日本形成外科学会災害対策マニュアルの作成について
　　３．厚生労働省「ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針」を遵守しない診療に対する日本形成外科学会の対応について
活動の概要：１．申請(採択)状況につき、形成外科医育施設を中心とした 68 施設にアンケート調査を行い、51 施設から回答が得られた。アンケート結果では、平成 24 年度の新規申請件数は 195 件で前年度と同数、新規採択数は 58 件で、前年度に比べ増加傾向にあった。本結果は、日本形成外科学会ホームページ上に公開した。今後も調査を行う予定である。
　　２．日本形成外科学会災害対策マニュアルを作成し、日本形成外科学会ホームページ上に公開した。
　　３．「ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針」を遵守しない「医師の裁量権」の下に行われる幹細胞を用いた治療に対する、国内外他学会の状況、厚生労働省の対応につき調査した。

１３−ｉ）データベース管理部会

部　会　長：木股　敬裕
担 当 理 事：貴志　和生
委　　員：石田　有裕、今井　啓道、垣淵　正男、金子　剛、　小林　正弘、
　　武石　明精、橋本　一郎、前川　二郎、村上　隆一、矢野　健二、
　　山野辺裕二、山元　康徳、横井　克憲
開催年月日：全 体 会 議：①平成 24 年 4 月 11 日②平成 24 年 10 月 3 日

システム会議：①平成 24 年 5 月 31 日②平成 24 年 8 月 26 日
e-mail 委員会：多数回
主 な 議 題：１．平成 25 年次からの改訂版作成
２．24 年次データの集計・検証作業

		2010 年度	2011 年度	2012 年度
認定施設申請数	A	259	274	287
DB 提出施設数	B	238	273	284
DB 未提出施設数	C	21	1	3
DB 導入率(%)	B/A	91.9	99.6	99.0
教育関連施設申請数	D	173	163	160
DB 提出施設数	E	149	159	157
DB 未提出施設数	F	24	4	3
DB 導入率(%)	E/D	86.1	97.5	98.1
全施設 DB 導入率(%)	B+E/A+D	89.6	98.9	98.7
未提出の理由と対処				
紙ベースで提出		35	2	1
更新しないため未提出		10	3	5

活動の概要：１．７月：ＤＢ改訂に関して理事会で承認
２．８月～11 月：システム改良作業、マスター改訂作業
３．10 月：施設認定委員会に要望書提出（麻酔区分の定義と血管系腫瘍の施設認定報告のカウントについて）
４．12 月 17 日：改訂版ＤＢv1.05 を配布
５．平成 25 年 2 月：22 年次、23 年次、24 年次集計解析作業
６．平成 25 年 4 月：総会にて集積解析結果の発表
７．平成 24 年次施設認定におけるＤＢ提出状況
８．ＤＢ使用状況からの問題点（24 年次解析結果より）
48 施設：古バージョンのＤＢを使用、年度間違い、データが入っていないなどの問題点あり
⇒各施設に問い合わせて、原因の確認作業中
９．今後の重要点
・今後のデータ公表の内容や方法について
・データ解析結果の管理・公表に関わる規約

１４）将来計画委員会

委　員　長：亀井　譲
委　　員：朝戸　裕貴、朝村　真一、上田　晃一、川上　重彦、清川　兼輔、多久嶋亮彦、田中　一郎、三鍋　俊春、吉本　信也
開催年月日：①平成 24 年 4 月 13 日、②平成 24 年 10 月 5 日
主 な 議 題：１．関連領域の学会について
２．二階建ての学会について
３．特定領域指導専門医について

４．学術集会における外国人参加と臨床研修医参加について
５．女性評議員枠について

活動の概要：１．口蓋裂学会、頭頚部癌学会、創傷治癒学会に加えて、褥瘡学会と乳癌学会も形成外科関連領域の学会として進めることになった。
２．熱傷学会、手外科学会が二階建ての学会として承認された。今後、美容外科学会について検討することになった。
３．参加費、アジアセッションなど、学術集会会長にゆだねる方向になったが、さらに検討することとした。
４．女性評議員枠については今後の検討課題とした。

１５）医療安全推進委員会

委　員　長：内沼　栄樹
委　　員：岩平　佳子、高田　章好、根本　充、野平久仁彦、吉村浩太郎、
開催年月日：①平成 24 年 4 月 13 日、②平成 24 年 10 月 5 日
主な議題：１．医療用医薬品機器の安全性に関する情報収集およびホームページを介した会員への情報提供

活動の概要：１．以下をホームページに掲載した。
ⅰ）「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」の一部改正について
ⅱ）フランスＰＩＰ社の豊胸用シリコンバックに係る情報提供
ⅲ）「平成 24 年度革新的医薬品・医療機器・再生医療製品実用化促進事業」の実施について
ⅳ）医療ニーズの高い未承認医療機器等の早期導入に関する要望の募集について
ⅴ）医療用医薬品の有効成分の一般用医薬品への転用について
ⅵ）医療機器の不具合等報告の症例の公表および活用について
ⅶ）特に医療の現場に情報提供すべき内容を含んだ重要な事例の周知
ⅷ）献血液の研究開発等で使用に関する指針
ⅸ）医療機器の不具合等報告の症例の公表及び活用について
２．日本医療安全調査機構定時社員総会出席（平成 24 年 6 月 26 日・世界貿易センタービル）（内沼委員長）
３．日本医療安全調査機構定時社員会議（「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」協力学会説明会」）出席（平成 25 年 3 月 8 日・世界貿易センタービル）（内沼委員長）

１５－ｉ）感染制御対策部会

部　会　長：大慈弥裕之
担当理事：内沼　栄樹
委　　員：市岡　滋、　奥本　隆行、権太　浩一、高木　誠司

外 部 委 員 ：森兼　啓太（山形大学病院感染制御部教授）、
高田　徹（福岡大学病院感染制御部教授）
開催年月日：①平成 24 年 4 月 13 日、②平成 24 年 10 月 5 日、メール委員会随時
主 な 議 題 ：創傷処置感染防止策の策定
活動の概要：創傷処置における感染予防を目的に、創処置感染防止対策案の作成作業を行った。2013 年 3 月のメール理事会により、日本形成外科学会感染制御対策部会「創傷処置における感染防止対策指針（最終案）」が承認された。(P36-39 資料参照)

１６）専門医統括会議

委　員　長：平野　明喜
委　　員：川上　重彦、楠本　健司、佐藤　兼重、鈴木　茂彦、中塚　貴志、
中西　秀樹、平林　慎一、細川　亙、　吉本　信也
開催年月日：①平成 24 年 4 月 13 日、②平成 24 年 6 月 22 日、
③平成 24 年 10 月 5 日、④平成 25 年 2 月 8 日
主 な 議 題 ：１．本専門医制評価・認定機構の報告
２．研修手帳の作成
３．医育機関における形成外科診療班および診療科の取り扱い
４．専門医制度細則 19 条の見直し
５．専門医認定審査試験の審査基準
６．その他
活動の概要：１．専門医の位置づけ
２．中立的第 3 者機関による専門医と認定施設の認定
３．サイト・ビジットの実施への協力
４．厚生労働省のヒアリング。Subspeciality 専門医への対応の協議
５．医育機関への形成外科新設・独立への要望書の送付
６．形成外科診療班については教育関連施設への配置換え
７．形成外科診療科として要件の検討

１７）皮膚腫瘍外科指導専門医認定委員会

委　員　長：山本　有平
担 当 理 事 ：百束　比古
委　　員：石原　剛、　木村　中、　清澤　智晴、黒川　正人、鈴木　健司、
竹内　正樹、田中　克己、堤田　新、　寺師　浩人、中岡　啓喜、
中川　雅裕、林　礼人、　平林　慎一、古川　洋志、迎　伸彦、
元村　尚嗣、安田　浩、　吉龍　澄子
活動の概要：１．専門医認定審査
【第 2 回開催】
日時：2012(平成 24)年 10 月 3 日(水)
※第 21 回日本形成外科学会 基礎学術集会前日

場所：ホテルリステル猪苗代
申請者数：12 名
受験者数：12 名
合格者数：12 名
【第 3 回開催予定】
日時：2013(平成 25)年 11 月 6 日(水)
※第 22 回日本形成外科学会 基礎学術集会前日
場所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

２．教育セミナー
【第 5 回開催(第 21 回基礎学術集会 開催時)】
日時：2012(平成 24)年 10 月 5 日(金)8:00-9:00
申込者数：23 名
受講者数：23 名
【第 6 回開催(第 56 回総会・学術集会 開催時)】
日時：2013(平成 25)年 4 月 5 日(金)8:00-9:00
申込者数：97 名

３．委員会
日時：2013(平成 25)年 4 月 5 日(金)12:00-13:00
以後、総会・学術集会および基礎学術集会 開催時の年 2 回開催予定

１８）女性医師支援ワーキンググループ

委　員　長：吉村　陽子
委　　員：舟山　恵美、森　文子、　小川　智子、饗場恵美子、藤井海和子、
田邉　裕美、矢野　志春、山脇　聖子、徳永　和代、山下　理絵
開催年月日：①平成 24 年 4 月 11 日、②平成 24 年 4 月 11 日（アンケート集計）
③平成 24 年 10 月 5 日　その他随時メール委員会
活動の内容：１．第 55 回日本形成外科学会学術集会における、イブニングセミナー「Twilight Champagne for women surgeons」を後援。
山下委員発案の企画を委員会としてサポート。

２．女性会員に対するアンケートの実施
上記イブニング会場で、参加者にアンケートを実施（内容をメール委員会で検討)。同日終了後に可能な範囲で集計作業を行った。集計結果の一部は第 56 回学術集会の特別企画にて発表の予定。

３．女性支援に関するプログラムを、学会ごとに計画していただくよう、理事長および第 56 回会長の平林先生に申し入れた。その結果、第 56 回学術集会において、特別企画「女性医師をどう育てるか」が企画された。

４．医育機関に対するアンケートの実施
形成外科が講座となっている全国の医育機関に、平成 24 年度の女性医師の現状についてアンケートを実施。女性医局員の多い大学の教授 4 名を、第 56 回学術集会特別企画「女性医師をどう育てるか」の

演者として平林会長に推薦した。本アンケート結果の一部の報告の予定。

日本形成外科学会感染制御対策部会
創傷処置における感染防止対策指針(最終案)

創傷処置における感染防止策

はじめに

平成 20 年、ある大学病院において多剤耐性アシネトバクター(*Acinetobacter baumanii*) 菌による院内感染が発生した。平成 21 年には他の大学病院において同菌検出症例の集積が認められた。本菌や多剤耐性緑膿菌など問題となる耐性菌の多くは環境菌であり、リザーバーと呼ばれる保菌者や環境に長期間生存し、医療者や環境など複数のルートを介して感染伝播される。形成外科医は創傷を扱う機会が多く、とくに褥瘡や糖尿病性足潰瘍などの慢性創傷は易感染性で、あきらかな感染徴候が無くても創部に細菌が定着している場合が多い。私たちは日常行っている創傷処置を介して感染が伝播されることがないよう、細心の注意を払わなければならない。

日本形成外科学会では、創処置における感染予防を目的に委員会を立ち上げ、感染防止策を策定することにした。われわれが作成する感染防止対策は、創傷処置に限定したものであり、手指衛生や手袋・ガウン着用などの基本的な感染対策である標準予防策や接触予防策については、各施設での感染対策マニュアルにしたがっていただくこととした。本感染予防策では創傷処置の際に必要な手順を具体的に示した。創傷処置は感染リスクの程度により、【閉鎖創・非感染創】と【感染リスクのある創・感染徴候のある創】に分け、後者に関しては先制攻撃的感染制御(preemptive infection control)の方針とした。

平成 25 年　月　日

日本形成外科学会
理事長　　平野　明喜
日本形成外科学会感染制御対策部会
委員長　　大慈弥　裕之
委員　　市岡　滋
　　権太　浩一
　　奥本　隆行
　　高木　誠司
特任委員　　森兼　啓太（山形大学病院　感染制御部教授）
　　高田　徹　（福岡大学病院　感染制御部教授）
担当理事　　内沼　栄樹

日本形成外科学会感染制御対策部会
創傷処置における感染防止対策指針(最終案)

創傷処置手順１

【閉鎖創（手術創・縫合創など）・非感染創（感染徴候がなく体液飛散の可能性が少ない開放創など）】

	処置実施者	介助者*1
１．手順（役割分担）の確認	・ 創の直接処置（消毒・ドレッシング貼布を実施）	・ 衛生材料、清潔器材を処置実施者に渡す ・ 終了後の片付け
２．必要物品の準備 ⇒創傷処置前に確認	・ 消毒薬含浸綿棒もしくは綿球（消毒薬を入れて） ・ ピンセット ・ ドレッシング材（ガーゼもしくはフィルム型ドレッシング） ・ 絆創膏.テープ類（可能であれば患者のベッドサイドに袋に入れて保管：個別使用の徹底） ・ 使用済み綿球、ガーゼ等の廃棄物を入れるビニール袋	
３．防護具の着用	・ 手指衛生（流水と石鹸の手洗いもしくは手指消毒）⇒手袋着用	
４．創傷処置の実際	1) ドレッシングを剥がす 2) 創の消毒（感染のない縫合創は原則として消毒は不要） ＊ 滲出液がある場合は、１個目の消毒綿球で拭き取る⇒２個目の綿球で消毒 ＊ 創が複数ある場合は、滲出液のない創あるいは閉鎖創⇒滲出液がある創を行う（創の清潔度を考慮する） ＊ CV カテーテル挿入部の処置を同時に行う場合は、挿入部の処置を行った後に創処置を行う 3) ドレッシング貼布（必要に応じて、軟膏類塗布、包帯固定）	1) 清潔器材（ピンセット・消毒綿球）を渡す ＊ 特殊な絆創膏等を使用する場合、必要な長さを予め切っておく（はさみは必要に応じて病棟で準備する） 2) 絆創膏跡の観察、必要に応じて創周囲の皮膚清拭、掻痒感がある場合の対応 3) 患者の寝衣を整える（必要に応じて腹帯巻きなおし）
５．片付け	1) ごみ袋（感染性廃棄物）を所定の廃棄物容器に廃棄する 2) 使用した器材は所定の専用容器に入れる ＊創傷処置中に汚染した患者の周辺環境箇所は除菌クロス等で清拭する	
６．防護具の脱衣	・ 手袋を外す（エプロンを着用の場合、手袋を外したあとにエプロンを外す）	
７．手指衛生	・ 手指衛生（流水と石鹸の手洗いもしくは手指消毒）	

*1：介助者の確保が困難な場合には、処置実施者が処置器材をすべて用意した上で処置行為に入るなどの工夫により、処置実施者一人で創処置を行ってもよい。しかし、その場合においても処置用手袋を装着したまま処置器材を出し入れできるような中立帯を設けるなどの工夫で、感染防止には十分に配慮する必要がある。

日本形成外科学会感染制御対策部会
創傷処置における感染防止対策指針(最終案)

創傷処置手順２

【感染徴候のある創、体液飛散の可能性のある大きい開放創（熱傷、褥瘡）など環境汚染リスクのある創、または、厳密な接触予防策を要する菌種（例、多剤耐性アシネトバクター、多剤耐性緑膿菌など）が検出されている創】*2

	処置実施者		介助者	
	処置実施者 A	処置実施者 B （必要に応じて）	介助者 （必要に応じて）	物品担当者
１．手順（役割分担）の確認	・ 創の直接処置	・ 処置実施者 A の補助	・ 患者の体位調整 ・ 洗浄等の処置介助 ・ 汚染器材の取り扱い	・ 衛生材料、清潔器材を渡す（創処置を行っている間は患者に直接触れない、汚染器材に触れない）
２．必要物品の準備 ⇒創傷処置前に確認	清潔器材用台車（ワゴン） ・ 消毒薬含浸綿棒もしくは綿球（消毒薬を入れて） ・ ピンセット ・ ドレッシング材（ガーゼもしくはフィルム型ドレッシング）シングルパッド ・ 絆創膏。テープ類（患者のベッドサイドに袋に入れて保管：個別使用の徹底） ・ はさみ ・ 防水シーツ.包帯.紙おむつ（患者の状況に応じて） 不潔器材用台車（ワゴン） ・ 使用済み綿球、ガーゼ等の廃棄物を入れるビニール袋 ・ 使用済み器材（ピンセット.鋼製小物等）入れ容器 ・ 除菌クロス			
３．防護具の着用	1) 手指衛生（流水と石鹸の手洗いもしくは手指消毒） 2) ビニールエプロンもしくはアイソレーションガウン(創の大きさ､洗浄の有無により袖なしか袖付か防水性か選択）を着用する ＊ ゴーグル、マスク、キャップ等は滲出液、体液が飛散する可能性がる場合、必要に応じて着用する 3) 手袋着用（＊手袋は最後に着用）			左記１）準じる ２）は袖なしビニールエプロン着用 ３）手袋着用
４．創傷処置の実際	1) ドレッシングを剥がす（処置実施者 A） 2) （必要時）創の洗浄（処置実施者 A）介助（介助者） 3) 洗浄後、周辺の皮膚をアルコール綿、もしくは温タオルで清拭実施（処置実施者 B もしくは介助者） 4) （必要時）創の消毒（処置実施者 B もしくは介助者） ＊ 滲出液がある場合は、１個目の消毒綿球で拭き取る⇒２個目の綿球で消毒 ＊ 創が複数ある場合は､滲出液のない創あるいは閉鎖創⇒滲出液がある創を行う（創の清潔度を考慮する） ＊ 必要に応じて手袋を交換する（便・尿等の排泄物を取り扱った後等） ＊ CV カテーテル挿入部の処置を同時に行う場合は、挿入部の処置を行った後に創傷処置を行う			・ 清潔器材（ピンセット・消毒綿球）を渡す ＊ 特殊な絆創膏等を使用する場合、必要な長さを予め切っておく（はさみは必要に応じて個別化（使用中止後は洗浄、消毒）

	5）ドレッシング貼布（必要に応じて、軟膏類塗布、包帯固定）	・ 創傷処置中は患者に触れない
５．片付け	1） 手袋を交換し、患者の体位、寝衣を整える 洗浄液.体液が飛散した場合はエプロンも交換する 2） ごみ袋（感染性廃棄物）を所定の廃棄物容器に廃棄する 3） 使用した器材は所定の専用容器に入れる ＊汚染した患者の周辺環境箇所（ベッド柵、床頭台、オーバーテーブル等）は除菌クロス等で清拭する	
６．防護具の脱衣	1） 手袋を最初に外す 2） ビニールエプロン、アイソレーションガウン（マスク、ゴーグル、キャップ）を外す	
７．手指衛生	・ 手指衛生（排泄物、体液等に触れた場合は流水と石鹸で手洗いを行ったあと、手指消毒を行う）	

*2 感染性が低い、あるいは抗菌薬耐性度の低い菌種に対しては、体液飛散の可能性がない限り、エプロン・アイソレーションガウンの使用を省略することができる。MRSA 検出創については各施設での院内感染マニュアルも参考にした上で防護具の使用を調整する